



神戸大学外科専門研修プログラム

Kobe University Hospital Department of Surgery



目次

1. 目的と使命	1
2. チェアマン挨拶	1
3. 専門研修の目標	2
4. 神戸大学外科専門研修プログラムの特色	2
5. 神戸大学外科専門研修プログラム施設群	4
6. 神戸大学外科専門研修プログラム管理委員会	6
7. 外科専門研修計画	7
8. 専門研修の評価と修了	12
9. 専攻医の就業環境	13
10. 専門研修プログラムの評価と改善	13
11. 専攻医の採用について	14



1. 目的と使命

神戸大学外科専門研修プログラムは、外科領域診療に関わる最新の知識・技術を習得し実践できる能力を養いつつ、外科領域の学問的発展に貢献することのできる外科専門医を育成することを目的としています。外科専門医の育成を通じ、地域医療の拡充と外科領域分野の発展に寄与し、国民の健康福祉を増進させることが本プログラムの使命です。

2. チェアマン挨拶



専門プログラム統括責任者

掛地 吉弘

(食道胃腸外科 教授)

2018年4月より新外科専門医制度が開始となり、神戸大学外科学講座では食道胃腸・肝胆膵・心臓血管・呼吸器・小児・乳腺内分泌の6つの分野が協力し、神戸大学を基幹施設とする新外科専門医プログラムをスタートさせました。神戸大学では外科6分野が一つの講座として密に連携することにより、専門医取得に効果的で、専攻医一人一人に合わせた自由度の高い専門研修プログラムの提供が可能となっています。

本プログラムでは、手術手技などの外科医としての専門的能力は当然として、大学ならではの基礎から臨床、日常診療から最先端の医療まで臓器・分野を越えた幅広い領域の知識や技術を学ぶことが出来ます。2019年4月からは災害救急医学分野の協力を得て、必修である救命・救急医療の充実も計っています。さらに3年間の専門研修プログラム終了後も様々な診療特色を持つ関連病院への出向や

大学院博士課程へ進学、国内外への留学など、幅広い選択肢の中から、自身の選択した専門分野（サブスペシャリティ）で外科医師としての研鑽を積むことが可能で、将来に向けて具体的な Career Path を提示します。

外科医には、高度な医療技術に加えて課題解決のためのコミュニケーション力、論理的思考力や創造力が必要です。また何より優れた医師であるために豊かな人間性、高い倫理観を養う必要があります。神戸大学プログラムでは一人一人の患者さんから教わる日々の診療の重要性を認識し、「なぜ？」と絶えず問いかける姿勢を大切にし、「医師としてどう動けば良いか」を皆で考え、感性豊かな総合力を涵養して参ります。

神戸大学プログラムでは、参加する専攻医一人一人の個性を活かし、能力が最大限に発揮できる環境を整え、患者さんに最良の医療を提供できる外科医を育てます。組織で育む良い伝統を次世代に受け継

ぎ、指導者を育てて各所に貢献できる人材を輩出していきます。外科に興味を持ち、神戸の自由な気風の中で外科医としての可能性を拡げたい方はいつでも門を叩いてください。

神戸大学外科学講座キャリアサポートセンター開設について

神戸大学外科学講座では従来より 6 診療科（食道胃腸外科・肝胆膵外科・心臓血管外科・呼吸器外科・小児外科・乳腺内分泌外科）協力体制のもと講座運営を進めて参りました。各診療科で専門性の高い診療を追求しながらも、「横のつながり」を特に大切に情報共有・課題解決にむけた相互協力体制の強化に努めてきました。

一方で、昨今の外科医不足・外科離れは深刻な社会問題であり、若手外科医のリクルートは医療界における喫緊の課題となっています。長年医学生教育に携わる中で私自身強く感じているのは、外科に興味を持っている医学生は非常に多いという事実です。しかし、この興味が外科志望に直結していないのが現状で、厳しい労働環境もその大きな要因とされています。2024 年 4 月から導入された医師の働き方改革は大変重要な変革点であり、外科への認識を変えることが出来るチャンスと捉えています。外科医の働き方・労働環境改善について真剣に議論し、外科本来の魅力を発信し続ける取り組みを続けていけば、外科を志す若者はきっと増えると思っています。

神戸大学外科学講座では学生・研修医・専攻医への情報発信・進路相談などのキャリアサポート体制を更に強化すべく、このたび外科学講座キャリアサポートセンターを発足する事と致しました。これまでも 6 診療科協力体制のもと推進してきたハンズオンセミナー、プログラム説明会をはじめとしたリクルート活動、若手外科医育成のためのプログラムをさらに発展させ、神戸大学外科の魅力を発信できるよう尽力する所存です。

外科医育成、キャリアプラン構築には関連施設との密接な連携体制強化が必須です。現在、神戸大学外科専門研修プログラムと 6 つの関連施設・外科専門研修プログラムを中心に関連施設と連携し、若手外科医の育成に注力しています。キャリアサポートセンターでは、これまで以上に関連施設との情報共有・指導体制を強化し、若手外科医育成に尽力したいと考えています。

「伝統の継承と既成概念からの脱却」「全ての外科医に笑顔を」「共に紡ぎ、後世に繋ぐ」の 3 つをセンター理念として掲げました。神戸大学外科学講座キャリアサポートセンターでは、旧来の大学・医局システムのもと諸先輩方が築き、紡いできた古き良き伝統を継承し、一方で変革が求められる時代のニーズに対しては、スピード感をもって改革していきたいと考えています。

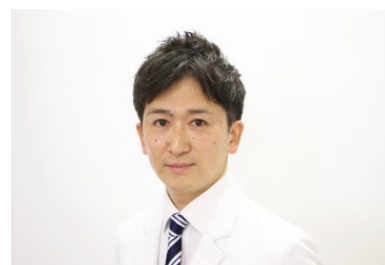
神戸大学外科学講座キャリアサポートセンター 小松 昇平



キャリアサポートセンターHP



キャリアサポート問い合わせ先



3. 専門研修の目標

本外科研修プログラムにより、以下の4つの資質を備えた外科専門医になることを目指します。

1. 外科専門知識
2. 外科専門技能：診察・検査・診断・処置・手術
3. 継続的な科学的探求心
4. 医師としての倫理観とプロフェッショナリズム

4. 神戸大学外科専門研修プログラムの特色

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の6分野ならびに外科系講座の災害・救急医学分野が連携し、プログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修を計画することができます。

●サブスペシャリティ専門医への連動

整備基準に記される各領域の必須経験症例数は、研修期間中に十分な余裕を持って取得できます。外科専門医研修から切れ目なく各サブスペシャリティ専門医研修へと連動させることで、効率的に経験症例を蓄積することが可能です。またサブスペシャリティが未決定の専攻医についても、各領域一線の診療環境で研修を行うことで、研修を通じて自身の目標を明確化していくことができます。

●学術活動

学会発表や論文作成は、整備基準に記される必須業績を単純に蓄積するにとどまらず、サブスペシャリティ専門医取得へ効率的に連動できるように、研修管理委員会で管理します。各サブスペシャリティ領域の指導医が、個々の専攻医の将来へ直結する業績を無駄なく蓄積できるように指導を行います。

●研修施設群

施設群には大学病院、センター病院、専門病院、都市部病院、地方病院など様々な規模、地域の病院を有しており、外科専門医取得のために効率的な研修が行えるとともに、各専攻医の目標や興味に応じた研修プランの構築が可能となっています。

●専門研修指導医

プログラムの専門研修指導医は、随時指導者講習への参加等、指導スキルの向上を図っています。外科学会、各領域サブスペシャリティ学会の専門医、指導医、評議員などを多数名有しており、専攻医ごとに最適なロールモデルに身近に接し、一線の指導を受けることができます。

●研修環境

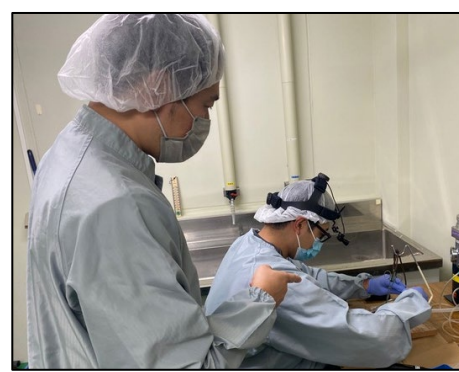
基幹施設である神戸大学附属病院には、外科スキル自主研修用のロボットシミュレーターが設置されており、自由に利用可能です。また学内 LAN より、主要邦文、英文雑誌はオンラインで自由に入手可能です。外科関連成書、ビデオライブラリーは各分野医局で保有しており、専攻医は自由に閲覧可能です。



学会発表



シミュレーター



基礎研究

●研究、学位取得

研究、学位取得、あるいは将来の留学を希望する専攻医は、研修中に大学病院の各分野の持つ臨床研究テーマに取り組む事や、研究期間を設けて各分野研究室で研究を行う事などが可能です。大学院進学や研究期間を設ける場合においても外科専門医取得の遅滞が生じないように、経験数や業績の蓄積を行えるように研修プランを構築しています。

5.神戸大学外科専門研修プログラム施設群

- 神戸大学医学部附属病院を基幹施設とし、連携施設（50 施設）と併せて専門研修施設群を構成しています。
- 300 名を超える専門研修指導医が専攻医の指導にあたっています。

神戸大学外科専門研修プログラム施設群



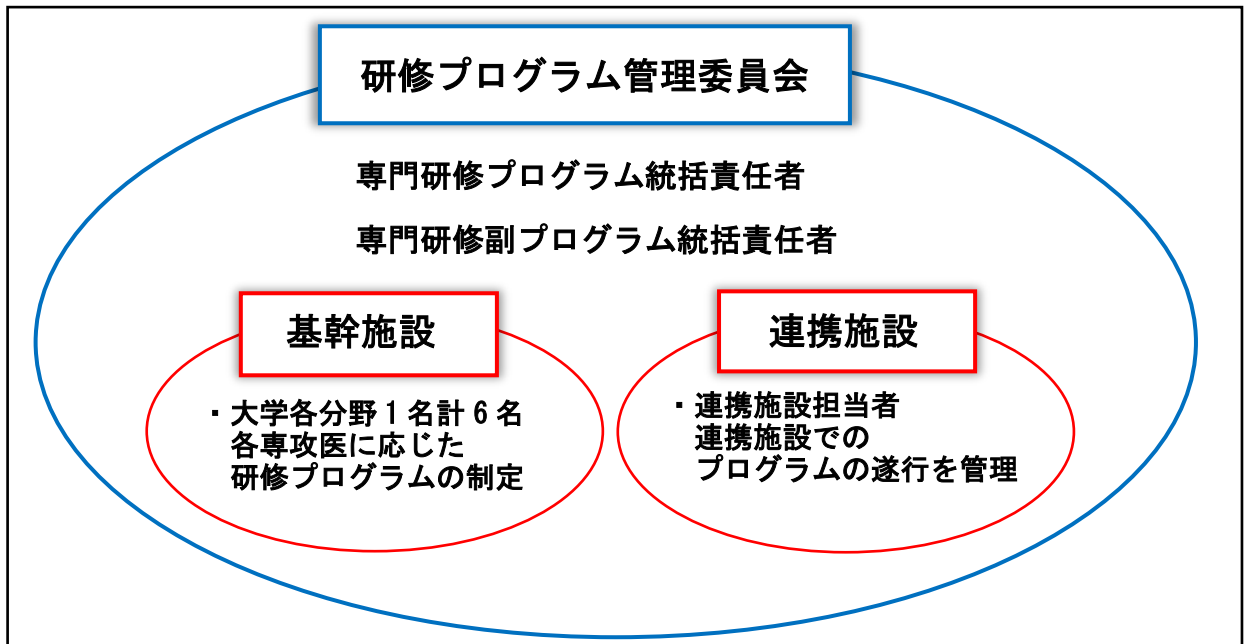
サブスペシャリティ学会専門医、指導医

病院名	消化器外科		心臓血管外科		呼吸器外科		小児外科		乳腺外科		サブスペシャリティ 修練施設	2023年 NCD症例数
	専門 医	指導 医	専門 医	指導 医	専門 医	指導 医	専門 医	指導 医	専門 医	指導 医		
神戸大学医学部附属病院	34	20	10	1	4	1	5	2	4	1	消、心、呼、小、乳	2297
神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター	2	1			1	1			1	1	消、呼、乳	536
IHI播磨病院	1	1									消	69
市立三田市民病院	4	3							1		消、小、乳	475
三菱神戸病院	1	1									消	207
住友病院			4	2	3	1					消、心、呼	916
八鹿病院											消	253
中央総合病院	2	1									消、乳	242
公立神崎総合病院	1										消	188
兵庫中央病院	2	2									消	173
兵庫県災害医療センター											救	196
兵庫県立がんセンター	11	5			5	1			3	3	消、呼、乳	1186
兵庫県立こども病院			3	2			7	2			心、小	902
県立加古川医療センター	6	1									消	723
県立丹波医療センター	3	3									消、乳	769
兵庫県立西宮病院	6	3							5	2	消、乳	1115
加古川中央市民病院	9	5	6	3	2	0	2	2	3	2	消、心、呼、小、乳	2361
真星病院												187
北播磨総合医療センター	6	3	4	1	1	0	0	0	1	0	消、心、呼、乳	1513
済生会吹田病院	5	2	1		1	1			1		消、呼、乳	983
済生会茨木病院	3	2							1		消、乳	472
姫路赤十字病院	7	5	2	1	2		3	2	2	1	消、小	2060
市立加西病院	1	1									消	181
千船病院	5	4									消、乳	717
高槻病院	7	5	3	2	2	1	5	3	2	1	消、心、呼、小、乳	1689
新須磨病院	3	1	2	1							消、心	139
明和病院	11	6			1		1		2	1	消、呼、乳	1373
明石医療センター	5	3	3	1	1						消、心、呼	1460
南部医療センター・こども医療センター	1	1	4	2			3	1			心、小	1261
淀川キリスト教病院	7	7	3	1	2	1	3	1	2	1	消、心、呼、小、乳	1503
大阪府済生会中津病院	4	3	3	2	2	0	0	0	3	2	消、心、呼、乳	1283
済生会兵庫県病院	6	5			1	1			1	1	消、呼、乳	503
甲南医療センター	8	5			2				2	2	消、呼、乳	760
ときわ病院	1	1									消	198
兵庫県立はりま姫路総合医療センター	9	4	4	3	2	1	1		1	1	消、心	2070
県立淡路医療センター	4	4	2	1	1	1					消、心、呼、乳	1361
神戸労災病院	3	1	4	3	1	1					消、心、乳	617
神戸医療センター	6	5							1		消、乳	556
神戸海星病院	2										消、乳	122
神戸赤十字病院	6	6	4	2	1	1					消、心、呼	868
聖隷三方原病院	8	6	3	3	6	4			1	1	消、心、呼、乳	1761
聖隷淡路病院	2	1									消	71
市立西脇病院	2	2							1		消、乳	325
赤穂市民病院	5	4									消	457
高砂市民病院	3	2			1						消、呼、乳	128
愛仁会井上病院	1	1	2	1							消、心	458
国立循環器病研究センター			13	9							心	1489
神戸救済会病院	3	2									消、心	404
公立豊岡病院	5	2	4	1					1	1	消、心、乳	1189

専門医数には指導医も含む

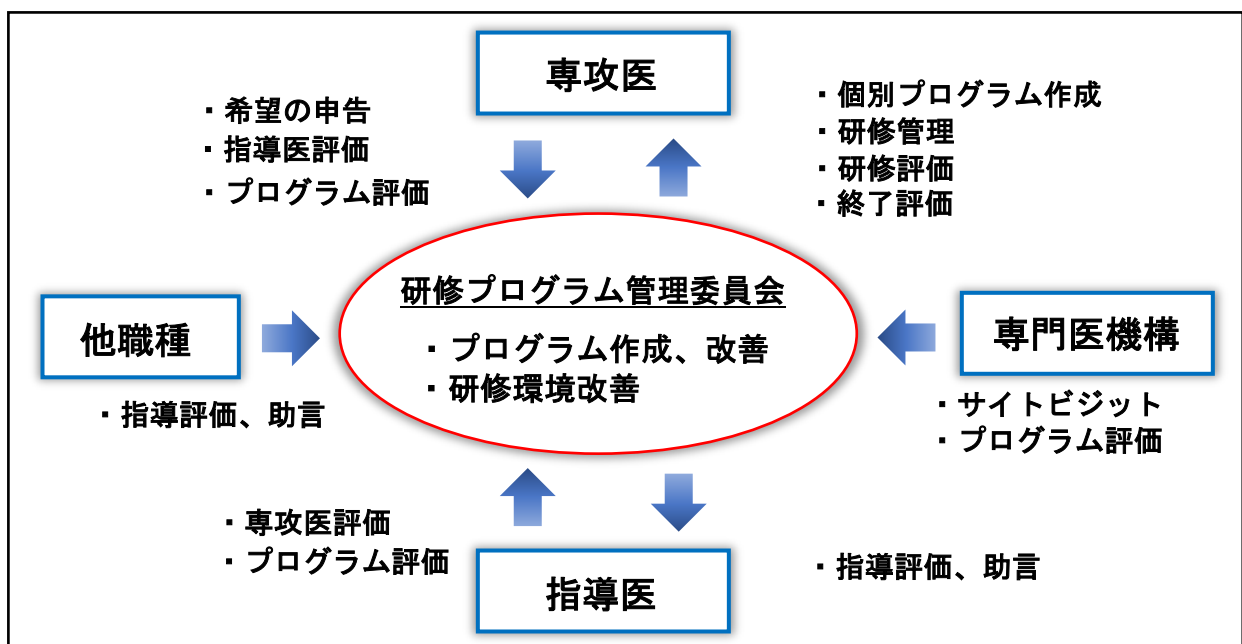
6.神戸大学外科専門研修プログラム管理委員会

専門研修プログラム管理委員会は、プログラム統括責任者、副プログラム統括責任者を中心に、基幹施設である神戸大学医学部附属病院外科学講座の6分野からの担当者、および連携施設担当者により組織されています。



●役割

研修プログラム管理委員会は、専攻医、指導医、他職種等と連携し、専門研修プログラムの作成、管理、改善を行うとともに、研修全般の管理、研修修了判定を行います。



7.外科専門研修計画

研修プログラム管理委員会が専攻医に対して個別のヒアリングを行い、各専攻医のライフプランに併せた研修プログラムを作成します。

一年ごとに定期の再検討の機会を設けるとともに、研修中にも随時希望を研修プログラム管理委員会へ申告することができます。

- 研修期間は初期臨床研修修了後、3年間です。
- 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6ヶ月以上の研修を行います。
(基幹施設あるいは連携施設のみでの3年間の研修は行えません。)
- 専門研修3年間で、整備基準に記された専門医取得に必要な経験、業績を取得します。
- 初期臨床研修期間中に外科専門医基幹施設ないし連携施設で経験した手術症例(NCDに登録されていることが必須)は、研修プログラム統括責任者が承認した症例に限り、手術症例数に加算することができます。
- 専門研修期間中に神戸大学大学院へ進学することも可能です。臨床に従事しながら研究を進める期間は専門研修期間として扱います。この場合も3年間で外科専門医を取得出来ます。
臨床研究または学術研究・基礎研究を行います。基礎研究での研究専任期間は6か月以内となります。
- 外科専門医予備試験に合格し、通算5年以上の修練期間を経て、規定の診療経験、および業績を有する方は、下記次第により本年度認定試験(面接試験)を受験することができます。

● 専攻医の到達目標

- **到達目標 1 (専門知識)**：外科診療に必要な下記の基礎的知識・病態を習熟し、臨床応用ができる。
解剖学、病理学、腫瘍学、病態生理学、輸液・輸血学、血液凝固・線溶学、栄養・代謝学、感染症学、免疫学、麻酔科学、集中治療学、救急医療学など
- **到達目標 2(専門技能)**：外科診療に必要な下記の検査・処置・麻酔手技に習熟し、臨床応用ができる。
検査の施行と結果の評価、周術期管理、麻酔手技の実施、外科処置の施行、外科関連専門分野の初期治療と転送の判断など
- **到達目標 3 (学問的姿勢)**：外科学の進歩に併せた生涯学習の基本を修得し、実行できる。
カンファレンスや学術集会への出席と発表、外科学会への1回以上の出席は必須、臨床で直面する問題解決のための資料収集、論文作成など
- **到達目標 4 (倫理性、社会性など)**：外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとして適切な態度と習慣を身につける。

医療行為に関する法律の理解と遵守、患者や家族との信頼関係構築、インフォームドコンセントの実践、チーム医療の実践、ターミナルケアの実践、外科診療の指導、書類の作成・管理など

●専攻医の経験目標

- 経験目標 1：外科診療に必要な疾患を経験または理解する。
- 経験目標 2：（手術、処置）一定レベルの手術を適切に実施できる能力を修得し臨床応用できる。
 - ・350 例以上の手術手技を経験（NCD に登録されていることが必須）
 - ・術者として 120 例以上の経験（NCD に登録されていることが必須）
- 経験目標 3：地域医療への外科診療の役割を習熟し、実行できる。

外科専門医取得に必要な最低手術経験数：350 例

領域別分野を問わず術者として 120 例

領域別分野術者・助手を問わず内視鏡手術 10 例

消化管および腹部内臓：50 例

乳腺：10 例

呼吸器：10 例

心臓・大血管：10 例

末梢血管：10 例

頭頸部・体表・内分泌外科：10 例

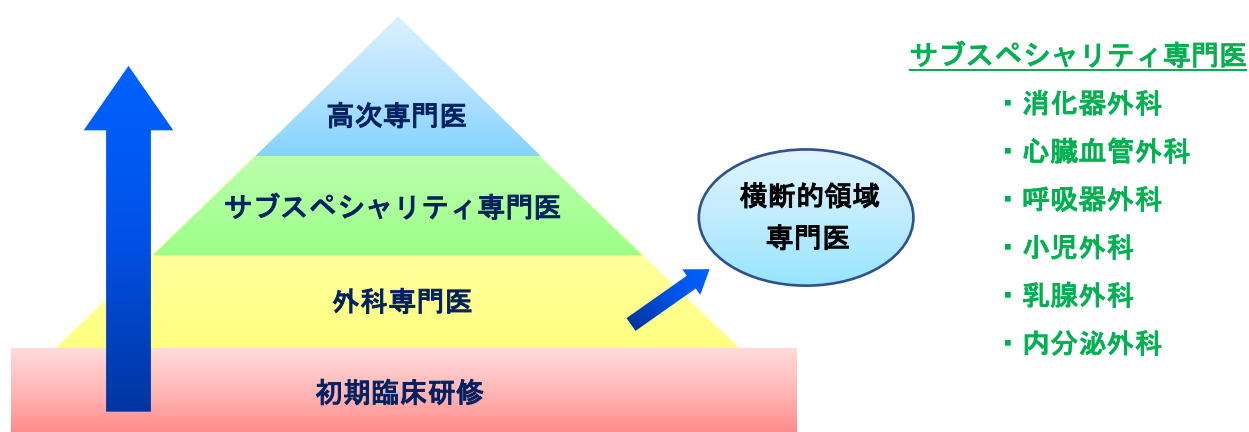
小児外科：10 例

外傷：10 例

●サブスペシャリティ専門医取得も見据えた研修計画

サブスペシャリティ専門医、横断的領域専門医取得に向けての業績作りをサポートします。

外科系専門医制度グランドデザイン



●研修計画の例



<診療業績> 各領域で見直しが行われており、今後変更される可能性もあります。

サブスペシャリティ	業績
消化器外科専門医	1. 術者または助手として 300 例以上の手術経験 2. 50 例以上の術者（中・高難度の中から 20 例以上）
心臓血管外科専門医	1.術者として最少 50 例以上の手術を行うこと 2.第 1 助手としては、50 例以上を行うこと
呼吸器外科専門医	1.術者として 50 例以上の手術経験を有する 2.総ての呼吸器手術の助手症例が 100 例以上
小児外科専門医	1.小児外科手術 150 例以上の執刀経験 2.新生児 20 例以上の手術経験、うち少なくとも 10 例は執刀経験
乳腺専門医	100 例以上の乳癌症例の診療経験

<論文業績> 各領域で見直しが行われており、今後変更される可能性もあります。

サブスペシャリティ	業績
消化器外科専門医	論文 3 編以上（筆頭論文 1 編以上を含む） 学会発表筆頭で 3 回以上
心臓血管外科専門医	論文 3 編以上（筆頭論文 1 編以上を含む） 学会発表筆頭で 3 回以上
呼吸器外科専門医	査読性のある全国誌以上で 3 編以上（うち筆頭論文 1 編以上）の 論文・著書を執筆する
小児外科専門医	筆頭者として小児外科に関する研究論文あるいは症例報告を 1 篇 以上発表していること
乳腺専門医	学会機関誌等に掲載された筆頭著者の学術論文 1 編以上

● 臨床現場を離れた学習、自己学習について

自ら臨床上の問題点を明確とし、それに対する解決策を最新の知見をもとに考えていくこと、また自身に求められる知識や技量を把握し、その習得へ向けて研鑽すること、これらのために臨床現場を離れた学習、自己学習は不可欠な機会と位置づけています。

最新の知識やスキル獲得のため、学会や研究会、セミナーへの積極的な参加を勧めます。主要な学会、研究会等のスケジュールは研修管理委員会よりアナウンスします。神戸大学外科学講座では、ハンズオンセミナー（年2回ドライラボとウェットラボ）を主催し、各分野も積極的に研究会を主催しています。これらの会へ専攻医も参加することができ、また実際にロボットに触れることもできます。各分野医局に常設のドライラボやビデオライブラリー、書籍などは自由に閲覧、使用が可能です。基幹施設で随時開催の医療安全講習、感染対策講習、医療倫理講習の受講は必須とします。

これらを十分に活用し、自律的に成長できる能力を身につけた専門医となることを目指しましょう。



若手消化器外科腹腔鏡トレーニングコース



兵庫消化器外科腹腔鏡教育プログラム

● 地域医療について

神戸大学専門研修プログラムの施設群は、僻地を含めた地方中核病院を多数有します。地域での研修では、専攻医は研修中であると同時に、地域医療を担う戦力として一線で能動的に活躍することが求められ、これは医師としての責任感や倫理観を涵養する重要な機会となります。また地方に特有の医療事情や疾患傾向を学び、地域の医療資源や救急体制を理解し、地域の特性に応じた病診連携や在宅医療を実践していきます。

本プログラムでの外科専門医育成に欠かせない研修と位置づけており、地域医療経験の機会を十分に活かすとともに、安全で有益な研修となるように、十分な指導体制を整備しています。

兵庫県外傷救急外科（Acute Care Surgery）グループのご案内

外科専門医の多様なキャリアパスを可能にするために、2020年に兵庫県病院局の協力を得て神戸大学外科学講座・兵庫県外傷救急外科（Acute Care Surgery）グループが設立されました。

外傷救急外科（Acute Care Surgery）は外傷外科（Trauma Surgery）・内因性救急外科（Emergency Surgery）・外科的集中治療（Surgical Critical Care）から成る米国発祥の新しい分野であり、本邦でも2019年にAcute Care Surgery認定外科医制度開始、今後外科専門医のサブスペシャリティ領域になることを目指しています。

本邦におけるAcute Care Surgeryの専門領域は「集中治療を要する重症外傷や急性腹症」と位置付けられており、最も重要なエッセンスは「時間と生理学的徴候を意識した手術・集中治療」です。その育成プログラムの第一ステップが外科専門研修プログラムです（兵庫県病院局発行リーフレット・神戸大学外科学講座ホームページ参照）。

2021年度は2名、2022年度は3名が外傷救急外科育成プログラムによる外科研修を開始しています。来年度も引き続きAcute Care Surgeryに興味を持つ研修医の皆さまの参加をお待ちしています。

● 問い合わせ先

神戸大学外科学講座 事務担当： 小松 昇平 komasho8@med.kobe-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.kobe-u.ac.jp/sdomon/index.html>

兵庫県外傷救急外科グループ グループ長兼オーガナイザー：

坂平 英樹 hidekisakahira@gmail.com

（はりま姫路総合医療センター 外科消化器外科 外傷救急外科担当部長）

8.専門研修の評価と修了

- 専攻医と指導医による相互評価を基本とします。
- 専攻医は自身の経験症例を把握し、研修達成度の自己評価を行います。
- 指導医は日々の診療の中で専攻医を指導し、達成度を評価します。
- 医師としての態度、責任感、倫理観、社会性といったコアコンピテンシーの評価には、自己評価、指導医評価に加え、看護師長などの多職種による評価を含めます。
- 年度の末に専攻医評価表/実績記録へ専攻医による自己評価、および指導者評価を記載し、3月に専門研修プログラム管理委員会に提出します。
- 研修プログラム管理委員会は5年間、これらの記録を保管します。

●研修の修了

3月末の研修管理委員会にて、研修開始後3年を経た専攻医について修了の可否を評価し、修了者へは専門研修プログラム統括責任者が外科専門研修修了証を交付します。

●修了要件

年次毎の評価表および実地経験目録、学術活動報告に基づき専攻医研修マニュアルに記載の必須症例経験、業績を取得していること。

神戸大学外科専門研修修了判定試験（研修3年目2月実施）に合格し、外科専門医としてふさわしい知識、技能、態度を習得していること。

●専門研修の休止・中断、プログラムの移動、未修了

専門研修の休止、中断、プログラムの移動を希望する専攻医は、研修プログラム管理委員会へ申し出て下さい。研修プログラム管理委員会は、専攻医研修マニュアルにある、“専門研修の休止・中断、プログラム移動、未修了”の項に準拠して対応します。

9.専攻医の就業環境

専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は、専攻医の労働環境改善に努めます。専門研修プログラム統括責任者および専門研修指導医は、専攻医のメンタルヘルスに配慮します。専攻医の勤務時間当直勤務、給与、休暇は、労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規程に従います。

10.専門研修プログラムの評価と改善

神戸大学外科専門研修プログラムは、専攻医からのフィードバックを重視して研修プログラムの評価と改善を行います。

- 専攻医は年次ごとに、指導医、指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行います。
- 指導医は指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行います。
- 専攻医および指導医、また他職種よりの評価は研修プログラム管理委員会へ提出され、研修プログラム管理委員会は研修プログラムの改善を行います。
- 必要に応じ、研修プログラム管理委員会は専門研修指導医よりの聞き取りおよび指導、指導施設の実地調査および指導を行います。
- プログラムの修正、改善を行った場合、いかなる評価に基づいてこういった修正、改善を行ったかを記録し、日本専門医機構の外科専門研修委員会に報告します。
- 研修プログラム管理委員会は、プログラムの評価、修正、改善を記録し保管します。

● 研修に対する監査（サイトビジット等）、調査への対応

- 外部機関によるサイトビジットは、積極的に受け入れます。監査、評価に基づいて、研修プログラム管理委員会はプログラムの修正、改善を行います。
- いかなる評価にもとづいてどのような修正、改善を行ったかを記録し、日本専門医機構の外科専門研修委員会に報告します。

11.専攻医の採用について

●年度募集専攻医数

32 名

●応募資格

- 医師法に定められた日本の医師免許を有する。
- 初期臨床研修修了登録証を有する。ただし、平成 16 年 3 月以前に卒業の医師は免除とする。

●専攻医募集スケジュール

前年	7 月	説明会開催
	10 月	募集開始
	11 月	プログラム統括責任者宛への申請書類提出締め切り 書類選考、面接 選考結果を応募者へ通知
当年	2 月	研修病院決定
	3 月	専門研修オリエンテーション
	4 月	専門研修開始
	5 月 31 日まで	に日本外科学会事務局へ研修開始届けの提出

●提出書類

- ・ 申請書
- ・ 履歴書
- ・ 医師免許証コピー
- ・ 臨床研修修了登録証（コピー）あるいは修了見込証明書
- ・ 健康診断書

本プログラムへの応募者は、所定の形式の書類を専門研修プログラム統括責任者宛へ提出して下さい。

申請に関する詳細および申請書のダウンロードは神戸大学外科学講座ホームページへ。

(<http://www.med.kobe-u.ac.jp/sdomon/index.html>)

各分野のホームページへのリンクより、教室紹介およびサブスペシャリティ専門医取得へ向けた詳細などを掲載しています。

● 施設見学等に関するお問い合わせ先

神戸大学	肝胆膵外科	(078-382-6302)	小松 昇平	< komasho8@med.kobe-u.ac.jp >
	食道胃腸外科	(078-382-5925)	小寺澤康文	< kote1128@med.kobe-u.ac.jp >
	乳腺内分泌外科	(078-382-6871)	國久 智成	< kunihisa@med.kobe-u.ac.jp >
	心臓血管外科	(078-382-5942)	山中 勝弘	< yamanaka@med.kobe-u.ac.jp >
	呼吸器外科	(078-382-5750)	田根 慎也	< stane@med.kobe-u.ac.jp >
	小児外科	(078-382-5942)	宮内 玄德	< harukettamachine@gmail.com >

※兵庫県外傷救急外科グループ 小松 昇平 < komasho8@med.kobe-u.ac.jp >

● 本プログラムに関する問い合わせ先

神戸大学 肝胆膵外科 小松 昇平

電話：078-382-6302 FAX：078-382-6307

E-mail: hbp2kobe@med.kobe-u.ac.jp





神戸大学外科専門研修
プログラム管理委員会